
正史には居なかった『白色』の彼

黒い鳥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

正史には居なかった『白色』の彼

【Nコード】

N7942Z

【作者名】

黒い鳥

【あらすじ】

転生者とか、オリ主だとか、そんなものは関係ない。
ただ面白おかしく生きれば良いだけの少年の話。

(前書き)

ふと、思いついた小説。

二人目のIS適合者が現れた。

きっかけは彼は元々藍越学園に受験したのだが、彼の親友である織斑一夏が適合してしまった事により男子も適合するかどうかの試験が行われたのだ。

そして彼は見事適合し、親友が居るクラスに転入する事になったのだ。

これは、正史には存在しなかった少年による、物語である！

「えー、元藍越学園の因幡白兔^{いんぱはくと}。宇宙人、未来人、異世界、超能力者 居たらオレのところに来るように！」

「いきなりそれかよっ!？」

ツッコミ役：織斑一夏

ボケ役：因幡白兔

「はぁ……極東の猿とか、そんな悲しくなるような事を言うなよオ
ルコットさん。織斑先生に秘密裏で歌ってもらったオレ作『千の冬
になって』の歌詞を目の前で破かれたときぐらいの悲しみを感
じているぜ」

「人の黒歴史を教室で暴露するな」

ぶたれた。頭が痛い。

「一夏。これがお前のIS、『びや」

「お前のIS、『白夜』様だつて。千冬さん、自分が千の文字が入るだけに選んでいるよな」

「確かに千本桜で無双出来そうだが、明らかにこれは違うだろ」

「白式』だ」

また織斑先生に名簿でぶたれた。
篠ノ之から呆れた視線を感じる。

「はっ！ 初めましてになるな、シャルル。我等五レンジャーのボケ役と『白色』を司る因幡白兔だ」

「私が、カメラ役と『褐色』を司る凰鈴音よ！」

「そしてあっちにいるのが『鈍色』とツッコミ役を司る織斑一夏だ。そして君にはナレータ役と『橙色』の称号をあげよう」

「何のための五レンジャーかは置いておいて、何で王道の『赤色』『青色』『緑色』『黄色』『桃色』が一人も居ないんだよっ！？」

「ば、僕は遠慮しておくよ……」

シャルルに遠慮されてしまった。

シャルルと言えば、タバサのお父さん思い出すんだけど……やべ、身内による死亡フラグ建てちまった？

「久しぶりだな。ドイツにお前が流れてきて、そして密航によって帰国してしまった以来だな。ウサギ」

「お前一時期居なくなっていたと思っていたら、ドイツに行っただのか!？」

「と言うより、密航によってとか普通に犯罪なんじゃ……」

シャルルの言葉が耳に痛いです。

「ところで白兔」

「んー？」

「私の名前って、何で鈴^{りん}って呼ばれるようになったのかしら」

「鏡音さんが好きだったからじゃない？　もしくは『うっかり』さんが好きだったから」

「あたしも二人の事は好きだけど、ちょっと不純すぎる理由ね」

類友と駄弁ったり。

「ところで因幡。お前はいつ頃一夏と出会ったのだ？」

「篠ノ之が転校してすぐオレが転入したんだよ。鈴より数日ほど遅く」

「そうだったのか……すれ違いとは」

「懐かしいな……クラスメイトに『友民党』の覆面を渡して被らせて座ってもらうよう頼んだことがあったんだよ。いやあ、あの時の教室に入ってきた先生の表情は今でも思い出せるよ」

「お前も今とあんまし変わっていないのだな」

「ところで一夏、オルコットさんの姿が見当たらない……一人ツイッター中？」

「何でアイツをボツチ役にするんだよ……ただここに居ないだけだ」「そうか」

「そうだよ……ところで前に言っていた五レンジャーだけど」「ん？」

「弾は？ 何役で『何色』だ？」

「背景と『無色』」

「酷っ!？」

シリアス？

何それ喰えんの？

そんな彼が交わる物語。

（後書き）

書きません。

ちなみに五レンジャーの『橙色』が埋まっていた場合、生徒会長さんが監督役と『紫色』になっていた可能性が……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7942z/>

正史には居なかった『白色』の彼

2011年12月25日16時55分発行